

# 第3学年図画工作科学学習指導案

## 1. 単元名 「アート造形」

### 2. 単元の目標

#### (1) 教科としての目標

- つくりたいものを見つけて、積極的に取り組み、楽しむことができる。
- 活動の中で、造形的な発見をすることができる。
- 「いいな」や「発見」を学びと捉え、追求し深めていくことができる。

#### (2) 汎用的スキル

- 先を見通す力
- 好奇心・探究心

### 3. 児童の実態

本校の3年の子供達は、「つくりたいものをつくる」活動に慣れ親しみ、主体的に楽しんで活動してきた。学年の半数は附属園舎から上がってきた子供達であり、この子供達は附属園舎の頃から、「つくりたいものをつくる」活動を楽しんできた。

1年生の時は、2学期から図工の時間に「アート造形」の活動に取り組んだ。「アート造形」は、まさに「つくりたいものをつくる」といった活動である。その前の1学期にも子供達は「キッズ・フェスティバル」や「遊びの時間」において、「つくりたいもの」をつくっている。キッズ・フェスティバルは、本校2年生が中心となり幼稚園の子供達や1年生をリードしてフェスティバルをつくりあげていくというものである。この時も、自分達が活動する場面の絵を描いてイメージを膨らませたり、競技に使う小道具作りを楽しんだりした。

さらに、「遊びの時間」では、外で元気に体を動かす子供もいたが、モノづくりに没頭する子供も多く、空き箱などの廃材を利用して、お家をつくったり、武器をつくったり、ビー玉転がしをつくって遊んだりしていた。子供達は、一人ひとり創造的に楽しんでいて、また、カプラを駆使しビー玉転がしやタワーをつくる子供もいたが、このことにおいても創造力を発揮した活動であると言える。

さて、1年生の時の「アート造形」である。自分の「～をつくりたい」「～を描きたい」から始まるのが「アート造形」だ。やりたいことが動機であるために、活動に切実さがあり、どの子供達も主体的に活動してきた。またその中で、自分の想いを実現させるために、自ら本で調べたり、インターネットで調べたり、友だち同士情報交換したりと、教えなくても自然に学び方というものを身につけていった。また、ふりかえりカードなどから発見や気づきを明確にさせ、学びにつなげていくことを覚えていった。「アート造形」の活動を通して、好奇心・探究心を育み、先を見通す力をつけていったのである。

2年生になってからの「アート造形」の時間は、子供達がふりかえりカードによってさらに目標を明確にし、見通しを持って活動できるようにした。ただつくるだけではなく、ふりかえりをすることにより、ねらいをはっきりさせ、計画的に活動できるようにした。「アート造形」を通して学び方を覚え、つくる喜びを味わうことができたと考えている。

3年生は、「集団と自分との関わりにひたる」時期である。やりたいことを思う存分やろうとする時期から、他者を意識し始めるステージへと移行していく。

1学期の初めの活動として、「ダンボールのひみつき地」をつくることになった。忍者の秘密基地や自然の中の秘密基地など、同じ思いを持つグループで活動を開始した。活動の途中、他のグループの基地がおもしろそうだと移籍する子供も現れた。他者のいいなと思う部分との関わりがみられた。自分の想いだけではなく、他者を意識して受け入れるようになってきたのだ。

そこで、今回の「アート造形」では、振り返りカードを「いいなカード」に変更し、「いいな」と思うことを意識させようと考えた。

### 4. 教材について

図画工作科では、こうした「～したい」想いや、自分の考えを否定されることなく自由に試行錯誤、工夫できる場を大切にしたいと考えている。

本単元の「アート造形」は、子供達の「～したい」という想いから作られる活動である。受動的（受け身）ではなく、子供が、能動的に活動ができるよう、十分な時間と場所を保障し提供する活動である。

自分でやりたいことを見つけ、自分が伝えたいことの表現方法を見つける。そして、自分で材料をさがし、自分で計画を立てて見通しを持って製作する。うまくいかない時は自分で工夫して乗り切るなど、自分で考えて行動できる力を育てる。また、こうした活動で、自らの想いを達成させるためには、他者との関わりは必須である。必要となる情報を集めるため、教師に助言を求めたり、友達と話し合ったり等は、コミュニケーション能力を育む事にもつながる。他者を意識し始めるこの時期の子供達に適した活動であると考えられる。

「先を見通す力」「好奇心・探究心」を育むための手立てとして、毎授業ごとに行うふりかえりカードと活動の途中に入れる鑑賞活動をしている。主には、「つくりたいものをつくる」ということが、より主体性を育むための手立てと考えている。この2つの手立てを取り入れることにより、自分と向き合えるとともに、学びを共有することができ、さらに深い主体的な活動になり「好奇心・探究心」が生まれ「先を見通す力」がつくと考えている。

アート造形では、「自分でつくりたいものを見つける」ことで、「学びに必然性」が出てくる。また、学びに必然性があるので、「自分で見通しをたて活動する」ことができる。

つくりたいものがある事。そのつくりたいものに向かって取り組む事。ここに喜びを感じることができる。自分でつくってみたいものがあると、活動は自分にとって必然性のあることになり、主体的に取り組むことができる。それは、活動の過程で生じた子供達自身の問題であるので、自分なりに計画を考えて活動することができると考えている。

このアート造形の材であるが、さらに一人ひとり材が違って来る。実際については、本授業の中で、子供達のワークシートの中からみとっていく。

#### 5. 単元の計画と経緯 (全 10 時間 本時 6 / 10)

##### 単元計画

次	主な活動内容	活動ごとのねらい	関連する資質能力と手立て
1 ②	○目標を持って活動する。 ○目標に対してふりかえる。	・目標を決めてから活動に取り組むことができる。 ・目標にたいして、自分はどうかであったかふりかえることができる。	
2 ⑥	○活動計画をたてる。 ○活動での気づきや発見を共有する。 (本時 4 / 6)	・つくりたいものから材料や道具を準備することができる。 ・見通しを持って活動計画を立てることができる。 ・活動の中から、気づきや発見をすることができ、学びであることに気づき、追求し深めることができる。	
3 ②	○鑑賞	・鑑賞会を楽しむことができる。 ・自己評価をする。	

#### 6. 本時の学習指導計画 (6 / 10 時間目)

##### (1) 本時の目標

- ・つくりたいものから材料や道具を準備することができる。
- ・見通しを持って活動計画を立てることができる。
- ・活動の中から、気づきや発見をすることができ、学びであることに気づき、追求し深めることができる。

##### (2) 本時の展開

時間	予想される子供の活動・反応	教師の関わり □関わり ◆評価
35	1. アート造形をしよう ●いいなカードからつくりたいもの、材料・用具、今日の目標を確認。 ●自分のつくりたいもの、描きたいものをつくる。 ・活動の中で、いろいろな発見をする。  ・想いがうまく表現できない  ●発見したことの板書 ・発見の共有をはかる	□いいなカードから確認させる。決められない場合は、子供と関わりながら探していく。  □◆机間指導の中で、個々の子供と関わりを持ち、見とっていく。(積極的に取り組んでいる姿) □◆子供達の作品のよいところ工夫しているところを認める。 □◆発見した事を学びとして確認する。 □原因を話し合い、解決方法を気付けるように指導する。(友達同士との会話の中からも解決の方向に向かえるようにもしたい。) □障害となっているものをはっきりさせ、乗り越えられるように支援する。 □◆見つけてきた発見を認め褒めていく。 □発見したことを、板書してみんなに教えてあげるよう促す。
5	2. 掃除	
5	2. まとめ ●今日の活動をふりかえり、いいなと思ったことと発見したことを記入する。	□板書をふりかえる。 □今日のふりかえりを書いてもらい、次時につなげる。

用意するもの

- 子供 のりとはさみ クレヨン等 各自必要な材料
- 教師 廃材 板段ボール 段ボールカッター ガムテープ等

記録映像なし